

第17回日本・シンガポール・シンポジウム
柘植外務副大臣基調講演

シム・アン 外務 兼 国家開発担当上級国務大臣、
大塚拓 日本シンガポール友好促進議員連盟事務局長、
アショク・ミルプリ共同議長、
佐々江共同議長、
オン・エンチュアン駐日大使、
御列席の皆様、

ただいま御紹介にあずかりました外務副大臣の柘植芳文です。本日ここに第17回日本・シンガポール・シンポジウムを開催できることを大変喜ばしく思います。

まず、年頭に発生した能登半島地震に関し、リー・シェンロン首相をはじめシンガポールの皆様から温かいお見舞いの言葉を頂きました。日本政府、日本国民を代表して、心より深く感謝申し上げます。政府として、岸田総理の強いリーダーシップの下、被災地の復興に全力で取り組んでおります。

本日は、現在の日本とシンガポールの二国間関係、そして、今後の展望についてお話をしたいと思います。

日本とシンガポールが外交関係を樹立したのは、シンガポールの独立の翌年、1966年4月26日になります。

建国の父である、故リー・クアンユー元首相の強力なリーダーシップの下、外資系企業の誘致を強力に推し進め、日本からも多くの企業がシンガポールに進出し、とりわけ建国直後の経済発展に貢献したと聞いております。

2002年には、我が国として初めての経済連携協定をシンガポールと結ぶなど、両国は、様々な分野で友好・協力関係を深めてきました。

現在も、両国の政府間の往来・交流が進んでいます。

昨年5月に、岸田総理がシンガポールを訪問し、12月にはリー・シェンロン首相が訪日されるなど、2年連続で首脳間の相互往来が実現しました。

また、次期首相であるローレンス・ウォン副首相 兼 財務大臣も、昨年2度にわたり訪日されました。

個別の分野でも、協力の裾野が広がっています。ビジネスの分野では、2023年に立ち上がった官民経済対話の枠組みの下、スタート・アップ支援、デジタル技術を活用したサプライ・チェーンの高度化、デジタル経済の分野について、協業に向けた議論が始まっています。

同時に、農林水産物・食品の輸出拡大も推進していきます。

2023年の日本からシンガポールへの農産物の輸出額は、約550億円でした。これはアセアン諸国では二番目に大きい金額になります。

さらに、地域のハブであるシンガポールの発信力には日本の各都道府県からも高い期待が寄せられており、毎月のように各都道府県がプロモーションのためにシンガポールを訪れています。

私の出身地の岐阜県産の和牛も流通しており、レストランで好評であると聞いています。

このように日・シンガポール関係は幅広い分野で着実に進展していますが、世界が歴史の転換点にある中、両国は、地域や国際社会が直面する課題に共に取り組む重要なパートナーでもあります。

日・シンガポール両国は、首脳級・外相級をはじめとする幅広いレベルで、両国の地域・国際情勢に対する関与の在り方について不断に意思疎通してきています。

1997年から両国が共同で実施している「21世紀のための日本・シンガポール・パートナーシップ・プログラム」は、インド太平洋地域の平和と繁栄のための両国が協力している好例です。

このプログラムでは、日シンガポール両国の強みを活かす形で、この地域の国々を中心とする第三国の政府関係者等に対して、海上安全、国境管理、知的財産、デジタル経済といった分野に関する研修を毎年提供するものであり、長年好評を頂いています。

こうした個別の取組を着実に実施、強化しつつ、この地域の発展のために、引き続きシンガポールと力を尽くしていきたいと考えております。

法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序を維持・強化し、また、「人間の尊厳」が守られる世界を確保すべく、私も、シム・アン上級国務大臣やオン大使を始め、シンガポールの関係者の方々との連携を一層強固なものとしていく考えです。

また、我が国は、国家安全保障戦略にも掲げたとおり、他国との共存共栄、同志国との連携、多国間の協力を重視しており、シンガポールをはじめとするアセアン諸国との連携を引き続き強化していきます。

私は、政治の世界に入る前、長年にわたり郵便局の経営や郵便局長の全国組織の運営に携わってまいりました。その中で、人と人との交流を支える郵便事業が活力ある日本を形作っていくことを見てきました。二国間関係を支えているのも、人と人とのネットワークです。

日本とシンガポールの間では、国民間の交流も非常に活発ですが、日本とシンガポールは双方にとって人気の旅行先の一つとなっています。シンガポールからの訪日客は、2023年は約59万人に至っており、これは、シンガポール人口の10人に1人が日本を訪れた計算になります。

私自身、シンガポールが大好きであり、これまでに3度訪問しています。シム・アン上級国務大臣とは、昨日、二国間関係についてしっかり意見交換をさせていただいたほか、大の日本通で、外交官として優れた資質をお持ちのオン駐日大使とは既に密にやり取りさせていただいておりますが、引き続き、外務副大臣として、シンガポールとの人と人との交流を大切にしていきたいと思いますと考えております。

昨年、日アセアン友好協力50周年を迎え、共同ビジョン・ステートメントを発表し、新たな日アセアン関係に向けた一歩を踏み出しました。日本とシンガポールは、2026年には外交関係樹立60周年を迎えます。本日のシンポジウムの議論が、日本とシンガポールの新たな未来に向けた指針になることを祈念して、基調講演の結びとさせていただきます。

ありがとうございました。

(了)